

平成25年度 登録販売者試験問題（前半）

受験番号	氏 名

- ◎ 指示があるまで、開いてはいけません。
- ◎ 試験中は、係員の指示に従ってください。

注意事項

- 1 試験時間は、120分です。
- 2 問題数は、60問あり、すべて択一式です。
- 3 解答は、すべて別紙の解答用紙に記入してください。なお、4択式の問題と5択式の問題がありますが、解答用紙は印刷の都合上、すべて5択式になっています。
- 4 解答用紙および試験問題に受験番号および氏名を記入してください。
- 5 解答の方法は、正解と思うものを一つ選び、解答番号の数字の  を鉛筆で下記「例」のとおりマークしてください。
- 6 答えを二つ以上選んだ場合は、無効となります。
- 7 答えを記入間違いした場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 8 問題中の医薬品等に関する記述は、特に記載がない限り、特異的なものを考慮せずに解答してください。

解答の方法「例」

問1 次のうち、愛知県の県庁所在地はどれか。

- 1 一宮市 2 岡崎市 3 名古屋市 4 豊田市 5 豊橋市

問題番号	1	2	3	・	・	・	・
解 答	1	● ⋮ ●	● ⋮ ●	● ⋮ ●			
	2	● ⋮ ●	● ⋮ ●	● ⋮ ●			
	3	● ┆ ●	● ⋮ ●	● ⋮ ●			
	4	● ⋮ ●	● ⋮ ●	● ⋮ ●			
	5	● ⋮ ●	● ⋮ ●	● ⋮ ●			

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品の本質に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品回収の措置は、医薬品の製造販売業者の責任により行われるものであり、医薬品の販売を行う者は、回収の情報に注意を払う必要はない。
- 2 医薬品は、必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、その役割を十分に発揮する。
- 3 薬事法では、健康被害の発生の可能性がない場合に限り、医薬品に異物等の混入、変質等があってもよい旨を定めている。
- 4 一般用医薬品は、相対的に医療用医薬品ほど作用は強くないので、保健衛生上のリスクに注意する必要はない。

問2

アレルギー（過敏反応）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 免疫機構が過敏に反応して、体の各部位に生じる炎症をアレルギー症状という。
- 2 アレルギーは、内服薬だけではなく外用薬でも引き起こされることがある。
- 3 医薬品を使用してアレルギーを起こしたことがある人は、その医薬品に対して免疫ができているため、次回から使用しても問題ない。
- 4 アレルギーには体質的・遺伝的な要素もあり、アレルギーを起こしやすい体質の人や、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。

問3

医薬品による副作用への対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用する人が副作用をその初期段階で認識することにより、副作用の種類に応じて速やかに適切に処置し、又は対応し、重篤化の回避が図られることが重要である。
- b 副作用は、直ちに明確な自覚症状として現れないこともあるので、継続して使用する場合には、購入者に対して、定期的に検診を受けるよう、医薬品の販売等に従事する専門家から促していくことも重要である。
- c 副作用の兆候が現れても、通常はその疾病が治るまで同じ一般用医薬品を継続して使用することとされている。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等から副作用の発生の経過を十分に聴き、その状況次第では、速やかに適切な医療機関を受診するよう勧奨する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問4

医薬品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 「薬はよく効けばよい」、「多く飲めば早く効く」等と短絡的に考えて、定められた用量を超える量の医薬品を服用すると有害事象につながる危険性が高い。
- b 一般用医薬品に対する誤解や認識不足による不適正な使用や、それに起因する有害事象の発生の防止を図るには、医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者等に対して、正しい情報を適切に伝えることが重要となる。
- c 症状を一時的に緩和するために、一般用医薬品を漫然と使い続けていても、有害事象を招くおそれはない。
- d 人体に直接使用されない医薬品は、使用する人の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤っても、有害事象につながることはない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問5

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の乱用を繰り返すと、慢性的な臓器障害を生じるおそれがある。
- b 一般用医薬品には、習慣性のある成分を含んでいるものはない。
- c 一般用医薬品により薬物依存が形成されても、そこから離脱することは容易である。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な購入者等には慎重に対処する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問6

医薬品の相互作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 複数の医薬品を併用した場合、又は医薬品と特定の食品（保健機能食品や、いわゆる健康食品を含む。）を一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることを相互作用という。
- 2 かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬では、成分や作用が重複することはないため、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用を避ける必要はない。
- 3 医療機関で治療を受けている人は、一般用医薬品を併用しても問題ないかどうかについて、治療を行っている医師又は歯科医師若しくは処方された医薬品を調剤する薬剤師に確認する必要がある。
- 4 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。

問7

医薬品と食品との飲み合わせに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品と食品との相互作用は、専ら飲み薬（内服薬）の使用に際して注意を要する。
- 2 カフェインやビタミンA等のように、食品中には医薬品の成分と同じ物質が存在する場合があります、それらを含む医薬品と食品と一緒に服用すると過剰摂取となるものがある。
- 3 生薬成分が配合された医薬品は、生薬成分を含有する食品と合わせて摂取すると、効き目や副作用が増強されることがある。
- 4 酒類（アルコール）は、主として小腸で代謝されるため、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることはない。

問8

小児等に対する一般用医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品使用後の乳幼児の状態を保護者等がよく観察することが重要である。
- b 乳児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品であっても、乳児は医薬品の影響を受けやすく、また、状態が急変しやすく、その医薬品の使用の適否が見極めにくいいため、基本的には医師の診療を受けることが優先される。
- c 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家においては、保護者等に対して、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は避け、必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用するよう説明することが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問9

高齢者の医薬品の使用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高齢者は、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合があるので、情報提供や相談対応においては特段の配慮が必要となる。
- b 高齢者は持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品を用法用量どおりに使用していれば、基礎疾患の症状悪化や治療の妨げになることはない。
- c 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強くなりやすくなるが、既定用量の下限で使用していれば注意する必要はない。
- d 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問10

妊婦、妊娠していると思われる女性及び授乳婦（母乳を与える女性）の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊婦が医薬品を使用した場合、医薬品成分の胎児への移行は、胎盤関門によってすべて防御される。
- b 妊婦における一般用医薬品の使用については、その使用上の注意で「相談すること」とされているものが多い。
- c 授乳婦が医薬品を服用しても、医薬品成分が乳汁中に移行することはない。
- d ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 11

プラセボ効果に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に (a) によらない作用を生じることをプラセボ効果 (偽薬効果) という。プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による (b) な結果への期待や、条件付けによる生体反応、時間経過による (c) な変化等が関与して生じると考えられている。

	a	b	c
1	薬理作用	楽観的	自然発生的
2	薬理作用	悲観的	人為的
3	生理作用	楽観的	自然発生的
4	生理作用	悲観的	自然発生的
5	代謝作用	楽観的	人為的

問 12

医薬品の品質に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- b 医薬品は、未開封であれば、高温や多湿、光 (紫外線) によって品質の劣化 (変質・変敗) を起こすおそれはない。
- c 医薬品は、適切な保管・陳列がなされない場合、医薬品の効き目が低下するおそれはあるが、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることはない。
- d 一般用医薬品は、薬局又は店舗販売業において購入された後、すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることも重要である。

- 1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 13

一般用医薬品の役割のうち、誤っているものはどれか。

- 1 重度な疾病の治療
- 2 生活の質（QOL）の改善・向上
- 3 健康状態の自己検査
- 4 健康の維持・増進

問 14

一般用医薬品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、薬事法上「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの」（第25条第1項）と定義されている。
- b 情報提供は、医薬品の販売促進に結びつけることのみを目的としている。
- c 一般用医薬品で対処可能な範囲は、医薬品を使用する人の年齢によって変わるものではない。
- d 一般用医薬品を、一定期間使用して症状の改善がみられない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受けることが望ましい。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 15

一般用医薬品の販売に従事する専門家の対応に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 購入者が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状等がある場合であっても、その人の状態や様子全般から得られる情報は、状況把握につながる重要な手がかりとはならない。
- 2 購入者が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮がなされることも重要である。
- 3 すぐに医薬品を使用する状況にない場合には、実際に使用する際に、販売時になされた情報提供の内容を思い起こしながら、改めて添付文書等に目を通すよう購入者に対して促すことが重要である。
- 4 情報提供は、説明した内容が生活者にどう理解され、その行動にどう反映されているか、などの実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まるものである。

問 16

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド訴訟とは、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟をいう。
- b サリドマイド製剤は、1961年、西ドイツ（当時）のレント博士から副作用について警告が発せられ、日本では、同年速やかに販売停止及び回収措置がとられた。
- c サリドマイドは、光学異性体のS体に血管新生を妨げる作用がある。
- d サリドマイド製剤は、一般用医薬品としても販売されていた。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 17

スモンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモン訴訟は、解熱鎮痛薬として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b スモンの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- c スモン訴訟は、未だ和解が成立していない。
- d スモン患者に対しては、治療研究施設の整備、治療法の開発調査研究の推進、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担等が講じられている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 18

H I V 訴訟に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

H I V 訴訟とは、(a) 患者が、ヒト免疫不全ウイルス (H I V) が混入した (b) から製造された (c) 製剤の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b	c
1	血友病	血小板	アルブミン
2	血友病	原料血漿	血液凝固因子
3	白血病	原料血漿	アルブミン
4	白血病	血小板	血液凝固因子
5	白血病	原料血漿	血液凝固因子

問 19

H I V訴訟を契機としたH I V感染者に対する恒久対策及び医薬品の安全対策に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 献血時の問診の充実が図られた。
- b エイズ治療研究開発センターが整備された。
- c 製薬企業に対し、従来の副作用報告に加えて感染症報告が義務づけられた。
- d 緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 20

クロイツフェルト・ヤコブ病（C J D）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 C J D訴訟とは、脳外科手術等に用いられたヒト乾燥硬膜を介してC J Dに罹患したことに
対する損害賠償訴訟である。
- 2 C J Dは、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- 3 C J Dは、ウイルスの一種であるプリオンが原因とされる。
- 4 C J D訴訟を契機に生物由来製品による感染等被害救済制度の創設がなされた。

第3章 主な医薬品とその作用

問 21

かぜ及びかぜ薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜとよく似た症状が現れる疾患は多数あり、急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき又は悪化するようなときは、かぜではない可能性が高い。
- b かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、体内から取り除くものではなく、咳で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図るものである。
- c 季節や時期などによって、かぜの原因となるウイルスの種類は異なるが、いずれも上気道の粘膜から感染し、それらの部位に急性の炎症を引き起こす。
- d かぜであるからといって必ずしもかぜ薬（総合感冒薬）が選択されるのが最適ではなく、発熱、咳など症状がはっきりしている場合には、効果的に症状の緩和を図るため、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬などが選択されることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 22

漢方処方製剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 小柴胡湯は、かぜのひき始めから数日たって症状が少し長引いている状態で、疲労感があり、食欲不振、吐き気がする場合に適すとされる。
- 2 小青竜湯は、かぜのひき始めで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしぶしが痛い場合に適すとされる。
- 3 柴胡桂枝湯は、まれに重篤な副作用として間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。
- 4 葛根湯は、かぜのひき始めにおける諸症状、頭痛、肩こり、筋肉痛、手足や肩の痛みに適すとされる。

問 23

次の表は、あるかぜ薬に含まれる成分の一部である。このかぜ薬に含まれる成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

1 日量の成分	
アセトアミノフェン	900 mg
d-マレイン酸クロルフェニラミン	3 mg
臭化水素酸デキストロメトルファン	48 mg
d1-塩酸メチルエフェドリン	40 mg
無水カフェイン	75 mg

- a アセトアミノフェンは、主として中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらすと考えられている。なお、他の解熱鎮痛成分のような胃腸障害は比較的少ないとされる。
- b d-マレイン酸クロルフェニラミンは、鶏卵の卵白から抽出した蛋白質であるため、鶏卵アレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- c 臭化水素酸デキストロメトルファンは、非麻薬性鎮咳成分とも呼ばれ、延髄の咳嗽中枢に作用する。
- d d1-塩酸メチルエフェドリンは、抗コリン作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、かぜ薬に配合されるが、依存性がある成分であるため注意が必要である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 24

解熱鎮痛成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a イブプロフェンは、体内でのプロスタグランジンの産生を抑える作用があり、消化管粘膜の防御機能を高める。
- b エテンザミドは、痛みの発生を抑える働きが中心である他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みの伝わりを抑える働きが優位であるとされている。
- c 現在では、イソプロピルアンチピリンが一般用医薬品で唯一のピリン系解熱鎮痛成分となっている。
- d アスピリン（アスピリンアルミニウムを含む。）、サザピリンは、一般用医薬品では、小児（15歳未満）に対して使用することができる。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 25

第 1 欄の記述は、鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

関節痛、筋肉痛に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心・嘔吐、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第 2 欄

- 1 加味帰脾湯
- 2 半夏厚朴湯
- 3 薏苡仁湯
- 4 人參湯（理中丸）
- 5 六君子湯

問 26

カフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カフェインは、脳に強い興奮状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感を長期的に抑える効果が期待できる。
- b カフェインには、反復して摂取すると習慣になりやすい性質がある。
- c 眠気防止薬におけるカフェインの 1 回摂取量はカフェインとして 200mg、1 日摂取量では 500mg が上限とされている。
- d カフェインは、腎臓での水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋を収縮させる働きがあり、尿量の増加（利尿）をもたらす。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 27

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 塩酸ジフェニドールは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- 2 ジメンヒドリナートは、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示し、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- 3 ブロムワレリル尿素は、脳に軽い興奮状態を起こさせるとともに、末梢では消化管の緊張を低下させる作用がある。
- 4 アミノ安息香酸エチルは、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐き気を抑えることを目的として配合される場合がある。

問 28

鎮咳去痰薬に配合される成分とその作用、目的との関係のうち、正しいものはどれか。

(成分)	(作用、目的)
1 リン酸ジヒドロコデイン	— 気道の炎症を和らげる。
2 ジプロフィリン	— 痰の中の粘性蛋白質に作用し粘りけを減少させる。
3 塩化リゾチーム	— 延髄の咳嗽中枢に作用し、咳を抑える。
4 ノスカピン	— 気道粘膜から粘液の分泌を促進させる。
5 塩酸トリメトキノール	— 交感神経系を刺激して気管支を拡張させる。

問 29

生薬成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の()内には同じ字句が入る。

(a) と (b) は、去痰^{たん}作用を期待して用いられる生薬成分であるが、これらの生薬成分の摂取により糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、糖尿病が改善したと誤認されるおそれがあるため、1日最大配合量が(a)原生薬として1.2g以上、又は(b)として1g以上を含有する製品では、使用上の注意において成分及び分量に関連する注意として記載されている。

	a	b
1	セネガ	キョウニン
2	ナンテンジツ	オンジ
3	ナンテンジツ	オウバク
4	セネガ	オンジ
5	ナンテンジツ	キョウニン

問 30

登録販売者の対応に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛薬は、頭痛の症状が軽いうちに服用するのが効果的ともいわれるが、症状が現れないうちに予防的に使用することは適切でなく、解熱鎮痛薬を連用することによって、かえって頭痛が常態化することがあると説明した。
- b ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽^{そう}薬は、ビタミンCが含まれる飲料で希釈すると殺菌作用が増強すると説明した。
- c 咳^{せき}がひどく、痰^{たん}に線状の血が混入している症状に対し、一般用医薬品の鎮咳去痰^{がい たん}薬を勧めた。
- d 用時水で希釈又は溶解して使用する含嗽^{そう}薬は、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られないと説明した。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 31

胃の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされるが、アルミニウムを含む成分であるため、透析療法を受けている人では使用を避ける必要がある。
- b 塩酸ピレンゼピンは、味覚や嗅覚^{きゅう}を刺激して反射的な唾液^だや胃液の分泌を促すことにより、弱った胃の働きを高めることを目的として配合される。
- c ウルソデオキシコール酸、デヒドロコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。これらの成分は肝臓の働きを高める作用もあるとされるが、肝臓病の診断を受けた人では、かえって症状を悪化させるおそれがある。
- d リパーゼ、ジアスターゼは、胃粘液の分泌を促す作用や胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する作用を期待して胃の薬に配合される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 32

腸の薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 次没食子酸^{もつしよくし}ビスマス、次硝酸^{たん}ビスマスは、腸粘膜の蛋白質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂^{れん}）ことにより、腸粘膜を保護し、炎症を鎮める目的で配合されている場合がある。
- b タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、牛乳に含まれる蛋白質^{たん}（カゼイン）から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- c ビサコジル、ピコスルファートナトリウムは、腸内細菌のバランスを整えることを目的として用いられる。
- d 塩化バルベリンは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として配合される。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 33

第 1 欄の記述は、胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

痩せ型で腹部筋肉が弛緩する傾向にあり、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけ、げっぷ、食欲不振、吐き気などを伴う人における、神経性胃炎、慢性胃炎、胃アトニーに適するとされる。まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。

第 2 欄

- 1 麻黄湯まおうとう
- 2 麦門冬湯ばくもんどうとう
- 3 小建中湯しょうけんちゆうとう
- 4 安中散あんちゆうさん
- 5 芍薬甘草湯しゃくやくかんぞうとう

問 34

胃腸鎮痛鎮痙薬けいに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 臭化ブチルスコポラミンは、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用はあるが、胃液分泌を抑える作用はない。
- b 塩酸パパペリンは、胃酸過多や胸やけに対する効果を期待して用いられ、また、眼圧を上昇させる作用はないため緑内障の診断を受けた人にも使用できる。
- c オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされる。
- d ロートエキスは、副交感神経系の働きを抑えるが、消化管に限定されないため、散瞳じゆうによる目のかすみや異常な眩しさ、口渴等の副作用が現れることがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 35

浣腸薬に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

浣腸薬は、直腸内に適用される医薬品であるが、繰り返し使用すると直腸の感受性が(a)なり、効果が(b)なるため、連用しないこととされている。また、注入剤の浣腸薬の配合成分としては、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して、(c)やソルビトールが用いられる。

	a	b	c
1	低く	弱く	グアイフェネシン
2	高く	強く	グリセリン
3	低く	弱く	グリセリン
4	高く	弱く	グアイフェネシン
5	低く	強く	グリセリン

問 36

駆虫成分とその作用、目的との関係のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

(成分)	(作用、目的)
a カイニン酸	— 蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑え、殺虫作用を示す。
b パモ酸ピルビニウム	— 回虫に痙攣を起こさせ、虫体を排便とともに排出する。
c サントニン	— 回虫の自発運動を抑え、虫体を排便とともに排出する。
d リン酸ピペラジン	— アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させ、虫体を排便とともに排出する。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 37

心臓などの器官や血液に作用する薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センゾは、ヒキガエル科のシナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒腺^{せんとくせん}の分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示す。
- b ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢^{のう}中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を鎮める等の作用があるとされる。
- c ロクジョウは、シカ科のジャコウジカ又はその近縁動物の雄のジャコウ腺^{せんとくせん}分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- d シンジュは、ウグイスガイ科のアコヤガイ等の殻内肉組織中に形成される球状の塊を粉末にしたもので、鎮静作用等を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 38

高コレステロール改善薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ビタミンB₂（酪酸リボフラビン等）は、摂取により尿が黄色くなることがあるが、使用の中止を要する副作用等の異常ではない。
- 2 パンテチンは、高密度リポ蛋白質（HDL）の分解を促し、低密度リポ蛋白質（LDL）を増加させる効果を期待して使用される。
- 3 大豆油不飽和物（ソイステロール）には、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- 4 ビタミンE（酢酸トコフェロール）は、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ^{しびれ}）の緩和等を目的として使用される。

問 39

貧血用薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄分は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルであり、不足した鉄分を補充する目的で、フマル酸第一鉄等が用いられる。
- b マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB₁₂の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。
- c 銅は、ヘモグロビンの産生過程で鉄の代謝や輸送に重要な役割を持ち、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
- d コバルトは、糖質・脂質・蛋白質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 40

登録販売者の対応に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 高血圧や心疾患に伴う諸症状を改善する医薬品は、体質の改善又は症状の緩和を主眼としており、いずれも高血圧や心疾患そのものの治療を目的とするものではないことを説明した。
- 2 貧血用薬（鉄製剤）は、服用の前後30分以内にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が促進されるため、服用前後はそれらを摂取するよう勧めた。
- 3 下痢に発熱を伴う場合は、食中毒菌等による腸内感染症の可能性があり、また、虫垂炎や虚血性大腸炎のような重大な疾患に起因する場合もあるため、安易に止瀉薬を用いて症状を一時的に鎮めるのではなく、医療機関を受診するよう勧めた。
- 4 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの瘦身効果^{そう}を目的とする医薬品ではないことを説明した。

問 41

痔及び痔疾用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 裂肛は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態であり、一般に、「切れ痔」（又は「裂け痔」）と呼ばれる。
- b 直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より下部の、肛門の出口側にできた痔核を外痔核と呼び、排便時にのみ、出血等の症状が現れる。
- c カルバゾクロムは、毛細血管を補強、強化して出血を抑える働きがあるとされ、止血効果を期待して内用痔疾用薬に配合されている場合がある。
- d 痔は、肛門部に過度の負担をかけることやストレス等により生じる生活習慣病であるため、痔疾用薬の使用と併せて、痔を生じた要因となっている生活習慣の改善等が図られることが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 42

外用痔疾用薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジブカインは、抗ヒスタミン成分であり、痔に伴う痒みを和らげることを目的として用いられる。
- b クロタミトンは、局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して配合されている場合がある。
- c イソプロピルメチルフェノールは、組織修復成分であり、痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して用いられる。
- d 塩酸ナファゾリンは、血管収縮作用による止血効果を期待して配合されていることがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 43

婦人用薬に含まれる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コウブシは、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- b ソウジュツは、神経の興奮・緊張を和らげる作用を期待して配合されている場合がある。
- c カノコソウは、香りによる健胃作用を期待して配合されている場合がある。
- d センキュウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 44

第1欄の記述は、婦人用薬として用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

第1欄

虚弱体質で肩がこり、疲れやすく、精神不安等の精神神経症状、ときに便秘の傾向のある女性における冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症に適すとされるが、胃腸の弱い人では悪心（吐き気）、嘔吐、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第2欄

- 1 桂枝湯 けいしとう
- 2 酸棗仁湯 さんそうにんとう
- 3 白虎加人參湯 びやっこかにんじんとう
- 4 大柴胡湯 だいかいこうとう
- 5 加味逍遙散 かみしょうようさん

問 45

アレルギー用薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a シンイは、シソ科のケイガイの花穂を用いた生薬で、発汗、解熱、鎮痛等の作用を有するとされ、鼻閉への効果を期待して用いられる。
- b トラネキサム酸は、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として用いられる。
- c マレイン酸クロルフェニラミンは、抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。
- d 塩酸プソイドエフェドリンは、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が弱く、不眠や神経過敏の副作用は現れない。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 46

アレルギー及びアレルギー用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 蕁麻疹や鼻炎等のアレルギー症状に対する医薬品の使用は、基本的に対症療法である。
- b 一般用医薬品のアレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）は、長期の連用は避け、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けることが望ましい。
- c アレルギー症状が現れる前から予防的に一般用医薬品のアレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）を使用することは適当でない。
- d アレルギー症状を軽減するには、日常生活におけるアレルゲンの除去・回避といった根源的な対応が図られることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 47

鼻に用いる薬に配合される成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 塩酸フェニレフリンは、交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として用いられる。
- 2 クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からのヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵）等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として配合される。
- 3 局所麻酔成分であるリドカインは、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑えることを目的として配合されている場合がある。
- 4 グリチルリチン酸二カリウムは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として用いられる。

問 48

次の表は、ある点眼薬に配合されている成分の一部である。この医薬品に含まれる成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

100mL 中	
酢酸トコフェロール	20 mg
メチル硫酸ネオスチグミン	5 mg
塩酸ジフェンヒドラミン	20 mg
コンドロイチン硫酸ナトリウム	100 mg
アミノエチルスルホン酸（タウリン）	500 mg

- a 酢酸トコフェロールは、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整等の症状を改善する効果を期待して配合されている。
- b メチル硫酸ネオスチグミンは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として配合されている。
- c コンドロイチン硫酸ナトリウムは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して、配合されている。
- d アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して配合されている。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 49

点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 人工涙液は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。
- b アドレナリン作動成分を含む点眼薬は、緑内障と診断された人では、眼圧の上昇をまねき、緑内障を悪化させたり、その治療を妨げたりするおそれがある。
- c 抗ヒスタミン成分を含む点眼薬は、鼻炎用点鼻薬と併用した場合には、眠気が現れることがあるため、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
- d スルファメトキサゾールは、細菌感染による結膜炎やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎などの化膿性の症状の改善を目的として配合されており、すべての細菌に対して効果を示す。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 50

うおのめ（鶏眼）、たこ（胼胝）、いぼ（疣贅）に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

（ a ）は、角質の芯が真皮に食い込んでいるため、圧迫されると痛みを感じるのに対し、（ b ）は、角質層の一部が単純に肥厚したもので芯がなく、通常、痛みは伴わない。いぼは、表皮が隆起した小型の良性の腫瘍で、（ c ）性のいぼと老人性のいぼに大別される。いぼに用いる製品は、（ d ）認められている。

	a	b	c	d
1	うおのめ	たこ	ウイルス	医薬品としてのみ
2	うおのめ	たこ	細菌	医薬品としてのみ
3	うおのめ	たこ	細菌	医薬品又は医薬部外品として
4	たこ	うおのめ	細菌	医薬品としてのみ
5	たこ	うおのめ	ウイルス	医薬品又は医薬部外品として

問 51

歯痛・歯槽膿漏薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 歯痛薬は、歯の齶蝕（むし歯）による歯痛を応急的に鎮め、歯の齶蝕を修復する医薬品である。
- b 歯槽膿漏薬は、歯肉炎、歯槽膿漏の諸症状（歯肉からの出血や膿、歯肉の腫れ、むずがゆさ、口臭、口腔内の粘り等）の緩和を目的とする医薬品である。
- c 歯痛薬には、齶蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として、クレオソート等の殺菌消毒成分が用いられるが、粘膜刺激を生じることがあるため、歯以外の口腔粘膜や唇に付着しないように注意が必要である。
- d 内服で用いる歯槽膿漏薬は、同じ又は同種の成分が配合されたかぜ薬が併用された場合でも、副作用が現れやすくなるおそれはない。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 52

口内炎及び口内炎用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口内炎は、口腔粘膜に生じる炎症で、口腔の粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて痛み、ときに口臭を伴う。
- b 口内炎は、通常であれば1～2週間で自然寛解するが、一度に複数箇所に発生して食事に著しい支障を来すほどの状態であれば、医療機関を受診することが望ましい。
- c 塩化セチルピリジニウムは、口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して用いられる。
- d 一般用医薬品の副作用として口内炎が現れることがある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

問 53

一般用医薬品の禁煙補助剤（咀 嚼 剤）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 コーヒーや炭酸飲料などの口腔内を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避ける必要がある。
- 2 1年以上継続して使用する必要がある。
- 3 喫煙を完全に止めたうえで使用する必要がある。
- 4 妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避ける必要がある。

問 54

滋養強壯保健薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a グルクロノラクトンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合される。
- b アスパラギン酸ナトリウムは、髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種で、皮膚におけるメラニンの生成を抑えるとともに、皮膚の新陳代謝を活発にしてメラニンの排出を促す働きがあるとされる。
- c ガンマーオリザノールは、生体内に存在する有機酸の一種であり、その働きは必ずしも明らかにされていないが、胃液分泌を促す、胃の運動を高める、胃壁の循環血流を増す等の作用があるとされ、胃の働きの低下や食欲不振の改善を期待して用いられる。
- d ニンジンには、神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高めるとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 55

第1欄の記述は、滋養強壮保健薬に配合される成分に関するものである。第1欄の記述に該当する成分として最も適するものは第2欄のどれか。

第1欄

腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素であり、製剤は骨歯の発育不良、くる病の予防等に用いられる。

第2欄

- 1 ビタミンA
- 2 ビタミンB₁
- 3 ビタミンB₆
- 4 ビタミンB₁₂
- 5 ビタミンD

問 56

漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 陰陽五行説は、人体の臓器を五臓六腑に分け、それぞれの臓器が相互に作用し合って生体のバランスを取っている、という考え方に基づいて処方を選択する考え方である。
- b 虚証とは、体内の臓器を働かせるエネルギーの貯蔵量が少ない体質（虚弱体質（体力の衰えている人、体の弱い人））をいい、実証とは、そうしたエネルギーの貯蔵量が多い体質（比較的体力がある状態）をいう。
- c 一般用医薬品として販売される漢方処方製剤は作用が穏やかなので、重篤な副作用が起きることはない。
- d 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 57

殺虫剤に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) は、有機リン系殺虫成分であり、殺虫作用は、(b) と不可逆的に結合してその働きを阻害することによる。

誤って飲み込んでしまった場合には、神経の異常な興奮が起こり、(c)、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。これらの症状が見られたときは、直ちに医師の診断を受ける必要がある。

	a	b	c
1	ジクロルボス	コリンエステラーゼ	縮瞳 ^{じゆうどう}
2	プロポスクル	コリンエステラーゼ	縮瞳 ^{じゆうどう}
3	プロポスクル	アドレナリン	散瞳 ^{さんどう}
4	ダイアジノン	アドレナリン	縮瞳 ^{じゆうどう}
5	ダイアジノン	コリンエステラーゼ	散瞳 ^{さんどう}

問 58

殺菌消毒成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩素系殺菌消毒成分は、酸性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスを発生するため、混ぜられないように注意する必要がある。
- b イソプロパノールは、ウイルスに対する不活性効果がエタノールよりも高い。
- c ジクロルイソシアヌル酸ナトリウムは、塩素臭や刺激性、金属腐食性が強く、プールの殺菌・消毒に用いることができない。
- d 日本薬局方に収載されているクレゾール石鹼液^{けん}は、原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 59

衛生害虫に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 蚊（アカイエカ、シナハマダラカ等）は、吸血によって皮膚に発疹や痒みを引き起こすほか、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱等の重篤な病気を媒介する。
- 2 燻蒸処理によりゴキブリの駆除を行う場合、ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しない殻で覆われているため、殺虫効果を示さない。
- 3 ヒョウヒダニ類やケナガコナダニはネズミを宿主として移動し生息場所を広げていく。吸血による刺咬のため激しい痒みを生じる。また、発疹熱などのリケッチア、ペストなどを媒介する。
- 4 トコジラミは、シラミの一種でなくカメムシ目に属する昆虫で、ナンキンムシとも呼ばれる。刺されると激しい痒痛を生じ、アレルギー反応による全身の発熱、睡眠不足、神経性の消化不良を起こすことがある。

問 60

一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 体外診断用医薬品とは、専ら疾病の診断に使用されることが目的とされる医薬品のうち、人体に直接使用されるものをいう。
- b 採取した尿を放置すると、雑菌の繁殖等によって尿中の成分の分解が進み、検査結果に影響を与えるおそれがあるので、なるべく採尿後速やかに検査がなされることが望ましい。
- c 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものである。
- d 子宮外妊娠や胎状奇胎などを生じている場合には、妊娠しているにもかかわらず検査結果が陰性となることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

